

最優秀

ぼくのおんがえし

新見市立新見南小学校

四年 小川 幸真

ぼくの大好きなことは、野球をすることだ。しかし、ぼくたちの地いきでは、野球チームがへるばかりだ。とてもさみしい。

ぼくも、去年までは、ソフトボールをしていた。しかし、人数げんしようによりへいぶしてしまった。そこで、今年から新しく野球チームに入った。野球ができることはとてもうれしい。しかし、これからは野球人口はへり、チームもへるばかりだと思う。

ある日お父さんと話をした。

「どんなじょうきょうになつても野球がしたいのか？」

と聞かれた。ぼくはまよわず

「やりたい。」

と答えた。するとお父さんは、

「よし分かった。」

とうなずいた。そして数日後、お父さんに

「チームを作つていっしょにやるか？」

「例え一人でもやるか？」

と聞かれた。ぼくは前聞かれた時と同じように、まよわずやると答えた。こうしてお父さんはチームを作るため、た

くさんの人と話しをしたり勉強をしたり、ぼくのために行動してくれた。とてもうれしかった。

そして、お父さんのチームができた。最初の練習はぼく一人から始まった。野球ができることはうれしかった。しかし、ずっと一人なのかと少し不安もあった。それでも、お父さんやコーチの方々の協力やよびかけで少しずつメンバーもふえた。

「野球をやつてみたい。」

「野球がうまくなりたい。」

という仲間ができてとてもうれしかった。

野球をしようしてくれるかんとくやコーチも、ふだんは自分のためや家族のために仕事をしているのに、ぼくたちのために野球を教えてくれて感しゃの気持ちでいっばいだ。その中でもお父さんは、かんとくとしてぼくのために、みんなのために一生けんめい野球を教えてくれる。またお母さんは、ぼくが、大好きな野球をずっと元気につづけていけるように体のことについて考えてくれる。体を大きくするために、たくさんごはんを作つてくれる。お母さんも毎日仕事でたいへんだけれど、お父さんといっしょにぼくをサポートしてくれている。大好きな野球ができるのは、家族みんなのさきえがあるからだ。家族だけではなく、コーチの方々やメンバーのお父さんお母さんたちみんなのさきえがあるからだ。このさきえを力にしてこれからはがんばりたい。ぼくの目ひよう「お父さんがいけなかつた甲子園にお父さんをつれて行くこと」これがぼくのおんがえし。